

門祖日隆聖人物語

第19回

江戸時代には、朝鮮からの使節が十二回も訪れたんだけど、本蓮寺はその内三回の使節の宿舎になったんだよ。

兵庫・久遠寺と高松・本蓮寺

門祖聖人が、瀬戸内海を渡ってご奉公に行かれる時、兵庫の津で舟便を待っておられたんだ。その時に宿泊されたのが「正木屋」で、出発の時に荷物を預けられたんだが、やがてご奉公を終えられ戻ってみると、預けられていた荷物が全部あつたんだ。当時は荷物が取られたり、無くなったりということがあつたんだね。そこで門祖聖人は、これを喜ばれ、このお宿に「正直屋」という屋号を贈られたんだ。やがて、このご縁で正直屋が教化となり、その先祖を祀る久遠寺が、門祖聖人の教えをいただくお寺となったんだ。嘉吉二年（一四四二）のことだよ。

同じ嘉吉二年、門祖聖人は牛窓のご奉公の後、高松新庄村で川上道蓮、江本蓮光という人を教化するんだ。やがて村人もご信者となり、ここに本隆寺というお寺が建てられたんだ。

このようにして、門祖日隆聖人は三つのお寺を建てられたんだね。さて、次号は四国のご奉公のお話です。



550

牛窓本蓮寺

備前備中（岡山県）備後（広島県）の三カ国を中心に教えを弘められた大覚大僧正は、三十数カ寺院を建てられたとも伝えられているんだ。凄いご奉公だね。

牛窓のご弘通

大覚大僧正は、貞和三年（正平二年・一三四七）、備前の国・牛窓へご奉公に行かれ、この地の有力な武士、石原佐渡守を教化されて法華堂が建てられるんだ。しかし、大覚大僧正がお亡くなりになると、だんだんさびれていってしまっただね。

それを伝え聞いた門祖聖人は、永享十年（一四三八）にお弟子の日暁師を牛窓に派遣されて、法華堂をもとの立派なお寺にするように命じられるんだ。日暁師は、佐渡守の子孫である石原但馬守道高氏の援助を受けて、荒れていた法華堂を立派にするんだよ。後に、道高氏の長男、修理亮伊俊は父の跡を継いでご弘通に励み、次男の愛千代丸は門祖聖人のお弟子となり、日澄と名前をいただいたいてご奉公されるようになるんだ。



瀬戸の夕日をご覧になりながら旅を続ける門祖聖人一行

牛窓のご弘通の手助けをされた石原氏は、瀬戸内海で海運業を営み、遠く中国や朝鮮まで出かけて貿易を行っていたんだ。もともと牛窓は、「瀬戸内海運の立ち寄りどころ 風待ち潮待ちの港町」で、歴史的に美しい風景や街並を残している場所だし、瀬戸内海海運の要所だったんだ。



明応元年（1492）に再建された本蓮寺本堂